

平成 27 年度インターンシップ実施報告

— 質の高いキャリア教育を目指して —

The Internship Program in 2015:
Toward Higher Quality Education for Future Career of SIST students

幸谷 智紀*1, 後藤 昭弘*2, 郡 武治*3, 吉川 尚子*4
松永 理恵*5, 松田 健*6, 青島 偉夫*7, 深野 竹識*7

Tomonori KOUYA, Akihiro GOTO, Takeharu KOHRI, Naoko YOSHIKAWA,
Rie MATSUNAGA, Takeshi MATSUDA, Hideo AOSHIMA, Takeshi FUKANO

Abstract: Our Internship has been introduced into the curricula of Shizuoka Institute of Science and Technology (SIST) since 1999. This report presents the discussion about the preparation, the organization and the results of the internship program conducted in 2015. In 2015, 104 companies in Shizuoka prefecture were involved in this program by providing their own internship programs for 245 students and 123 students participated in the programs. In addition, another 5 students participated in spring. The results of this program's past 16 years are summarized and its future prospects are presented.

1. はじめに

本学のインターンシップは、平成 11 年度に試行を行い、平成 12 年度から授業の一貫として単位を付与して実施している。本制度も開始から 16 年を経過し、企業との相互理解も深まってきている。また参加学生数もこの 2 年間は約 100 名に達している。このように、本事業は人材育成の手段のひとつとして、本学のキャリア教育の中で重要な位置を占める事業として定着している。

本報告は、平成 27 年夏期に静岡理工科大学において行われたインターンシップに関して、事業計画、受入企業に対する依頼、参加学生の募集、実習内容、参加学生の成績評価、実習結果の総括など、各段階における経過および結果を昨年度までのデータと比較可能な形でまとめ、本事業によって得られた成果や問題点を明らかにし、来年度以降の実施に向けた改善に資することを目的としている。

特に、学生および受入企業からの報告書を詳細に分析し、学生がインターンシップにおいてどのような内容の実習を行い、成果として何を得たか、また、企業による学生および実習内容の評価などを検討した。さらに平成 11 年度から平成 27 年度までの 16 年間のインターンシップ実施結果を総括的にまとめ、来年度以降のインターンシップに関する展望についても述べる。また、今年度 4 回目の取り組みとして平成 28 年春期に行われる春期インターンシップについても、その取り組みの概要を紹介する。

2. 平成 27 年度インターンシップの計画

昨年度の申し送りとして、以下の点が挙げられていた。

- ① 本学のキャリア形成教育が学生に広まってきたことにより、インターンシップへの関心も高まり、さらに学生の応募数が増加することが見込まれる。このことから、従来の受入れ企業との関係を深めると共に、さらに新規受入れ企業の開拓が必須である。
- ② 実習生の態度や状況について、企業からの評価の一部に良好とはいえないものもあり、事前研修を通して基本的なビジネスマナーを身につけさせる必要性が年々高まっている。
- ③ 春期インターンシップのあり方についてより具体的

に検討する。

平成 27 年度インターンシップは、これらの問題点を改善するため、以下の事業を取り入れた。

- ① 新規インターンシップ受入れ企業開拓に取り組んだ。
- ② 企業側への受入希望調査を一昨年、および昨年同様 4 月に開始した。
- ③ 企業からの全提出物を昨年同様 Web 上で入力できるようにし、インターンシップ受入れ申込み、実習報告、評価作業等の効率化によって企業の負担を軽減した。
- ④ 学生からの書類提出や手続きを主にキャリア支援課で取り扱い、同時に挨拶や言葉遣いの指導も行った。
- ⑤ 昨年度に引き続き春期インターンシップを行った。

上記施策により、事務的作業の効率化と簡便化を図りながら、学生の積極性の向上と意欲の喚起を図り、より高い教育効果が得られるインターンシップの実施を目指した。

3. 受入企業への協力依頼

地域社会との密接な連携を特色とする本学の教育の中にあつて、インターンシップ制度は地域産業との連携による、地域に役立つ人材の育成、地域の企業や地域社会との交流の推進などの観点から重要な役割を負っている。協力依頼企業の選定にあたっては、過去 16 年間の受入依頼の発送状況や、これまでの就職状況などを十分に考慮し、以下の条件で依頼状送付企業の選定を行った。

- ① 昨年まで依頼状を送付したが返事の全くない企業、インターンシップ不可の返事をいただいた企業を削除。
- ② 平成 26 年度卒業生の就職先企業のうち、通勤可能な地域の企業を追加。
- ③ 春期インターンシップに関する企業アンケートにおいて、夏期インターンシップ受入れが可能と回答のあった企業、インターンシップに前向きな企業を追加。
- ④ 求人ナビ登録企業の中で、インターンシップ受入れが可能で、通勤可能な地域の企業を追加。
- ⑤ 通勤可能な地域の市役所、図書館などを数件追加。

上記条件で選考の結果、インターンシップ受入れの可能性の低い事業所を削除するとともに、新たな事業所を追加し、4 月に昨年度と同数の 550 社に対してインターンシップ事業の協力依頼を実施した。その結果、平成 27 年度においては、104 事業所・228 名分(昨年度は 96 社 226 名分)の実習テーマ受入申し込みがあった。

2016 年 2 月 26 日受理

*1 インターシップ WG リーダー, *2 機械工学科, *3 電気電子工学科, *4 物質生命科学科, *5 人間情報デザイン学科,

*6 コンピュータシステム学科, *7 キャリア支援課

表1 実習先受入企業一覧表(受入回答企業104社、募集人数228名、実習実施企業67社、実習学生123名)

No.	会社名	実習地	テーマ	期間	日数	受入人数	実習人数
1	株式会社アーティス	浜松市中区	ウェブサイト制作に関する業務を理解する	9/7-9/18	10	1	1
2	株式会社RST	静岡市葵区	社会に出て働くとは?実践を通して体感するインターンシップ	9/8-9/14	7	10	5
3	株式会社アイゼン	浜松市南区	求められる精度と高品質を各工程ごとに実現する	8/31-9/11	10	1	1
4	アイティ・インターナショナル株式会社	静岡市葵区	コンテンツとITの実習	8/31-9/4	5	2	2
5	株式会社森町体験の里 アクティ森	周智郡森町	接客を通してサービス業を学んで頂きます.	8/5-8/18	14	2	1
6	ASTI株式会社	浜松市南区	車載電装品、又は制御機器の設計評価/製造工程分析の補助	8/24-9/4	10	1	1
7	天方産業株式会社(サーバとネットワーク)	浜松市中区	サーバとネットワークについて	8/31-9/11	10	1	1
8	天方産業株式会社(電子・制御システム)	浜松市中区	電気・電子・機械・情報通信のシステム機器と部品取扱い	8/31-9/11	10	1	1
9	株式会社出雲殿	浜松市中区	実施店舗によってテーマは異なる(要相談)	8/5-8/11	7	2	2
10	株式会社ウィンウィン ピーターパン(あおいの杜)	静岡市葵区	パン作りを通して、お客様に喜んでいただける仕事をする。(あおいの杜・静岡市葵区)	9/2-9/4、9/7、9/9 9/2-9/6	5	2	2
11	株式会社ウィンウィン ピーターパン(するが工房)	静岡市駿河区	パン作りを通して、お客様に喜んでいただける仕事をする。(するが工房・静岡市駿河区)	8/5-8/10	6	2	2
12	株式会社ウィンウィン ピーターパン(小麦市場)	焼津市	パン作りを通して、お客様に喜んでいただける仕事をする。(小麦工場・焼津市)	8/13-8/15、8/26-8/31	9	2	1
13	株式会社エーピーアイコーポレーション 袋井工場	袋井市	微生物を用いた発酵実験及び発酵液からの有用物精製実験	8/5-8/7、8/17-8/21	8	2	2
14	株式会社エキスパートパワーシズオカ	静岡市清水区	技術職	8/17-8/21	5	3	3
15	エズカ工業株式会社	磐田市	機械等の部品製作の補助、検査、組立、及び事務業務	9/1-9/12	10	1	1
16	NNP電子株式会社	磐田市	電子制御機器の試作補助、実験、データ取り、検証	8/31-9/11	10	1	1
17	株式会社オーミ	磐田市	ものづくりの基本となる金型作りを体験する	9/14-9/24	9	2	2
18	株式会社小楠金属工業所	浜松市西区	精密機能部品の切削加工と生産技術	8/31-9/11	10	1	1
19	株式会社かきこや	浜松市中区	明るく元気な接客	9/1-9/11	10	2	2
20	掛川市役所	掛川市	地方行政事務	9/14-9/19	5	1	1
21	小泉アフリカ・ライオン・サファリ株式会社(富士サファリパーク)	裾野市	ふれあい動物の提供	8/12-8/25	14	1	1
22	株式会社コーリツ	磐田市	マニュアルトランスミッション部品の組立作業	8/17-8/28	10	2	2
23	株式会社サイダ・UMS	焼津市	物造りの現場を実際に見て、面白さを体験する	8/31-9/11	10	2	2
24	株式会社サンテック	藤枝市	自動化装置の製作過程及び基本構成の修得	8/31-9/11	10	2	1
25	三明機工株式会社	静岡市清水区	世界トップ水準のロボットシステムメーカーのモノづくりの魅力	8/31-9/4	5	4	4
26	株式会社静岡制御	静岡市葵区	制御盤製作の基本知識習得	9/7-9/18	10	2	2
27	静岡ビルサービス株式会社	袋井市	建物、維持管理	8/31-9/11	12	1	1
28	株式会社システック	浜松市北区	インターンシップを通して、「何のために働くか」「働く意味・意義」を考える	9/7-9/17	9	2	2
29	株式会社静鉄ストア	掛川市	食に触れる(接客、販売、製造、清掃、荷出しなど)	8/17-8/23	7	1	1
30	株式会社榛葉鉄工所	掛川市	マフラー製造工程の実習とエクセルを使った管理資料作成	8/17-8/28	10	2	2
31	杉山メディアサポート株式会社	浜松市北区	画像処理・デザイン・SE・プログラマ・web デザイン	9/3、9/4、9/7-9/9	5	3	3
32	鈴与システムテクノロジー株式会社	静岡市清水区	チームで協力してひとつの仕事を完成する	9/7-9/11	5	1	1
33	社会福祉法人聖隷福祉事業団	袋井市	日本最大級の社会福祉法人で医療・保健・福祉・介護サービスについて知ってください	9/3、9/4、9/8-9/10	5	1	1
34	タイコエレクトロニクスジャパン合同会社	掛川市	世界最高水準にある製造技術とそれを下支える改善活動を体験する	9/7-9/11	5	2	2

35	高松電機株式会社	浜松市 東区	自動制御装置の組立等	9/7-9/18	10	2	2
36	株式会社田子重	焼津市	ふだんの生活を支えるスーパーマーケットで働いてみませんか	8/17-8/28	10	3	1
37	株式会社田島鉄工所	富士市	製造工程における基礎体験	8/5-8/11	5	4	4
38	農事組合法人 茶夢茶夢ランド 菅山園(茶)	牧之原 市	食を支えるのは農家だけではない(茶)	8/31-9/4	5	6	2
39	袋井市 月見の里学遊館	袋井市	文化施設での事業の企画運営を体験できます	8/8-8/23	10	2	2
40	東海サーモエンジニアリング株式 会社	浜松市 東区	空調設備の設計実習、冷媒配管加工実習	9/7-9/9、 9/11、9/15	5	1	1
41	東名電機株式会社	富士市	配電盤・制御盤の組立	8/31-9/11	10	2	2
42	株式会社特電	沼津市	社会人とは？特電とは？電気の基礎からシー ケンス制御まで	8/17-8/28	10	5	1
43	豊川信用金庫	愛知県 豊川市	研修センターでの講義及び営業店職場実習	8/10-8/14	5	3	1
44	豊橋鉄道株式会社	愛知県 豊橋市	大卒総合職における職場実習	8/17-8/28	10	1	1
45	ニチアス株式会社 袋井工場	袋井市	生産技術開発及び製造業務の補助	9/7-9/11	5	1	1
46	法多山 尊永寺	袋井市	参拝者の視線を大切にされた境内管理	9/4-9/8	5	3	3
47	浜松鉄工株式会社	磐田市	加工部品の工程設計～機械加工～出荷まで の作業を行う	9/1-9/14	10	2	2
48	袋井市役所	袋井市	一般行政事務の補助、事業運営の補助など	8/6-8/12 8/20-8/26 8/27-8/31	5	3	3
49	富士川まちづくり株式会社	富士市	遊びや体験を通して子供達に科学の不思議を 伝える	8/5-8/7、 8/23-8/25、 8/29、8/31 8/5-8/7、 8/26-8/29、 8/31	8	2	2
50	富士市役所	富士市	一般事務職、技術職 他(要望により調整)	8/17-8/21	5	2	2
51	富士ゼロックス静岡株式会社 浜 松支店 ODP	浜松市 中区	ゼロックス複合機を活用した、オンデマンド印刷業 務の流れを学ぶ	8/31-9/11	10	1	1
52	株式会社プレテック	焼津市	物づくりの実体験	8/17-8/28	10	2	2
53	株式会社ブローチ研削工業所	浜松市 東区	ワイヤー放電加工などの精密加工及び測定	9/10-9/18	7	2	2
54	ベルファーム株式会社	菊川市	ハウス農園(トマト栽培)	8/5-8/11	5	3	2
55	ポーラ化成工業株式会社	袋井市	製品品質検査(受入～出荷)	8/17-8/21	5	1	1
56	株式会社マイスターエンジニアリ ング 東京本社	東京都 大田区	外観検査装置デモ機の作成	8/31-9/4	5	1	1
57	松本印刷株式会社	吉田町	営業、制作、印刷、仕上加工	8/17-8/21	5	1	1
58	焼津市立焼津図書館	焼津市	図書館業務一般	9/9-9/13	5	1	1
59	矢崎化工株式会社	静岡市 駿河区	現場改善機器の設計・製作体験 等	8/17-8/21	5	1	1
60	やまと興業株式会社	浜松市 浜北区	商品開発	9/7-9/18	10	3	3
61	ヤマハモーターエレクトロニクス株 式会社	周智郡 森町	(未定)＜昨年度実施内容＞技術試作と評価に関 する実習	9/7-9/11	5	2	2
62	ユニインフォメーション株式会社	掛川市	ソフトウェア開発又は品質検査	9/7-9/18	10	1	1
63	ユニクラフトナグラ株式会社	湖西市	生産改善・マシンオペレータ	9/7-9/18	10	2	2
64	ユニ・チャームプロダクツ株式会社	掛川市	製造全般	8/17-8/21	5	3	3
65	リンナイテクノカ株式会社	掛川市	作業工程管理	8/24-8/28	5	2	1
66	株式会社レオパレス 21	静岡市 葵区	ビジネスマナー/接客マナーの習得や、マーケ ティング活動を通しての企画立案	8/17-8/21 9/7-9/11	5	3	3
67	株式会社ロジック	浜松市 中区	システムエンジニア・プログラマー	9/7-9/18	10	3	2
68	六興電気株式会社	静岡市 葵区	施工管理業務、事務補助業務の体験	9/3-9/9	5	2	2
69	菊川市役所	菊川市	ホームページの更新作業 or イベントの運営補 助	8/24-8/28 9/9-9/10、 9/11、9/13、 9/14 9/15-9/19	5	3	3
70	株式会社セイユー 富士芝川工 場	富士宮 市		8/17-8/22	6	1	1

表2 実習学生の学年・学科別人数

学科	2年	3年	院 1年	計
機械	1	39		40
電気電子		28		28
物質生命	1	20		21
コンピュータ		21		21
人間情報	2	11		13
大学院				
計	4	119		123

表3 実習企業地域別内訳

県・市名	社数	県・市名	社数	県・市名	社数	県・市名	社数
浜松市	15	富士市	4	湖西市	2	裾野市	1
静岡市	9	掛川市	3	沼津市	2	藤枝市	1
磐田市	5	焼津市	3	森町	2	富士宮市	1
東京都	5	神奈川県	2	愛知県	2	牧之原市	1
袋井市	5	菊川市	2	香川県	1	吉田町	1

表4 インターンシップ事前・事後研修会、報告会 出席者状況

学科	第1回	第2回	第3回	報告会	計(のべ)
機械	65	45	39	38	187
電気電子	58	35	25	28	146
物質生命	56	28	22	18	124
コンピュータ	33	23	20	21	97
人間情報	33	17	14	1	65
大学院	0	0	0	0	0
計	245	148	120	106	619

景気概況的には平成27年度は昨年に引き続き円安やアベノミクスによる株高を背景に明るい見通しが続き、後半若干世界経済が不安定になったものの、企業の新卒採用意欲は高く、受入れ企業数、受入れ可能募集人数ともに昨年より増加した。これは本学のインターンシップ制度への地元企業の理解が広まってきた事と、依頼企業の選択に関し、事務局職員の多大なる努力の成果である。

4. 参加学生募集と派遣企業の決定

4月の履修ガイダンスなどを利用し、全学学生に対して事前研修およびインターンシップ実習への参加要請を行った。また、報告書の提出と報告会および事後研修全てに参加しなくては単位の取得ができないことを告知した。その上で、インターンシップ参加希望者には4月14日の第1回事前研修をはじめとして、全3回事前研修を実施した。参加希望学生と派遣企業の決定に当たっては、受入企業側から提示された「実習テーマ」をもとに、学生が実習内容をよく検討した上で希望企業を選定し、第5希望までの受付を行った。希望学生が実習定員を上回った企業については、学生の意欲や専門分野と実習内容の関連等を考慮して選考を行った。また、学生の通勤の可能性についても検討し、通勤に特に時間がかかりそうな学生については個別に確認を行い、派遣学生を決定した。このように、極力学生の希望が優先されるよう配慮し、67社(昨年度は61社)に123名(同98名)の実習生を派遣することができた。実習生を派遣した企業ごとの実習期間、派遣実習生の人数などの一覧を表1に示す。また表2および表3に、学年別および学科別の実習生数の内訳および受入企業の地域別内訳を示す。

5. 事前教育について

前述したように、4月14日から3回にわたり事前研修会を開催し、インターンシップを受けるにあたり、基礎的必要事項や心構えなどを説明した。第1回事前研修は、245名(昨年度は238名)の参加があり、300講義室での開催となった。第1回事前研修の内容は、インターンシップの概要とインターンシップに参加する上での考え方や心構え、履修手続き等について説明を行った。また、近年採用

に際して特に重視されている社会人基礎力について改めて紹介し、この力を養うためにインターンシップを役立てることができることを強調して、動機付けを行った。第2回事前研修では、先輩による体験報告、および、実習先決定報告書や履歴書等の作成についての説明を行った。第3回事前研修では、実習に向うにあたっての諸注意事項、報告書類等提出物の説明をおこなった。以上3回の事前研修によって、学生の動機を十分に高めるとともに、ビジネスマナーの重要性に関する理解の徹底をはかった。

近年は、初年次からキャリア形成教育がカリキュラムに組み込まれ、十分なキャリア教育が行われているため、昨年同様事前研修は3回とした。3回にわたる事前研修によって明確な目的意識を持った学生を実習先に送ることができたと考えられ、回数に関しては3回で必要十分であると思われる。事前研修への参加者数を表4に示した。各事前研修はビデオに収録し、事前研修当日に実験・実習やその他の理由により参加できなかった学生も、後日DVDを見て内容に関するレポートを提出することにより、事前研修の補講を受けることができるよう配慮した。また、このDVDは春期インターンシップの事前研修にも利用した。第1回事前研修参加者245名(昨年度は238名)の内、123名(昨年度は98名)が企業実習を行うこととなった。第1回事前研修参加者中の実習参加率は53.9%(昨年度は41.2%)となり、参加率は昨年度と比べて増加し、参加人数も昨年度を20名以上上回った。ここ3年は概ね100名の参加者を得ており、本年度は過去最高の参加人数になったものの、遅刻や無断欠席による不合格者も5名に上った。従って、いたずらに参加者数・参加割合を増やす段階は過ぎ、今後は学生のキャリアへの覚醒を促しながら、インターンシップ参加者の質を上げるべき時期になっていると言える。

6. 受入企業数と参加学生数の推移

インターンシップの実習を行うにあたって、まず本学と実習生受入企業との間で“覚え書き”を作成した。これは双方の義務や責任を明らかにするとともに、万一の場合に備えて、実習生の受入に関して大学および企業の双方が遵守すべき事項を確認するためであり、双方が署名捺印した。

表 5 インターンシップ実習テーマの分野別分類

<p>[機械設計・開発などの分野] 産業用機械器具の設計・製作・メンテナンス、機械制御装置の設計・試作・販売、試作機の性能確認、自動化・省力化装置及び各種検査装置等の設計・製作、物流改善機器・福祉介護機器・プラスチック製品・自動車内装部品の開発・生産から販売、輸送用機器部品製造と光技術応用製品の開発・製造・販売。</p> <p>[生産・機械加工・試作・もの作りなどの分野] 自動車・オートバイ用クラッチ・製造、物づくりの基本となる金型作りを最新の設備と職人の技と若手技術者が一体となった物づくり、自動車・オートバイ・農業機械等の精密機能部品製造、銑鉄鋳物製造(プレス金型用、工作機械・産業機械用鋳物製造)、自動車輸送用機器部品製造販売、二輪用マフラー製造、各種プラスチック生計加工品の製造、二輪車・四輪車・汎用機械用エンジン部品及び車体部品の製造、ゼロックス複合機を活用したオンデマンド印刷業務全般、チラシ・カタログ・パンフレット・広報誌などの紙媒体としての印刷、ペーカリー(製造小売業)、紙オムツ・生理用品等の製造。</p> <p>[検査・測定・実験などの分野] 空気調和設備(温度・湿度・空気清浄度などの室内環境の調整)、電気・電子・機械・情報通信のシステム機器と部品取扱い。</p> <p>[電気・電子関係の開発・実験などの分野] 車載電装品・ホームエレクトロニクス・情報通信機器・制御機器等の製造・販売、自動車用コネクタの開発・生産、生産工場の設備(自動制御装置)の設計・製作・施行、輸送機器などの電装部品の開発・製造・販売、電気・通信機器や放送用機器などの多様な製品のLSI設計ソフトウェアの開発・ハードウェア</p>	<p>ECO製品の設計開発・製造、配電盤・制御盤の設計・製造精密自動車部品・精密家電部品の製造・計測器・ロボットシステムの開発・製作、電気設備工事の施工管理。</p> <p>[物質科学関係の開発・実験などの分野] 発酵技術を駆使した医薬中間体・原薬の製造、農業(モモ、ブドウ、キウイ)・ジャム製造販売・農業教育、化粧品製造・研究から生産まで一貫した体制でのもの作り。</p> <p>[情報関係などの分野] ウェブサイトの構築と運営・ICTソリューションの提供・インターネットを利用したメディア事業・ウェブシステムの研究開発及び提供・インターネット通販事業、コンテンツ(映像系・Web系)制作・ITシステム構築、物流・商流・航空など幅広いシステム開発やデータセンター・ネットワークサービス・お客様にトータルソリューションを提供するシステムインテグレータ。</p> <p>[企業経営・管理などの分野] 山と川に囲まれた自然の中でスポーツや工芸体験ができる観光施設の接客サービス、水産製造加工メーカー直営のマリンステーションの接客サービス、金融業、職場体験・グループワーク、スーパーマーケットにおける業務、ビルマンション総合管理、自動車の買取・販売、ホテルにおける業務、ファイナンス・プラン業務、農産物を生産から販売する地域資源プロデュース業務、自動車ディーラー。</p> <p>[福祉活動・団体活動などの分野] 地方行政事務、地方公共団体事務、公共文化施設における業務、境内管理(清掃・まき割り・伐採など)・受付業務(参拝者への対応など)、図書業務、子供科学体験館・プラネタリウムでの運営補助と接客業務。</p>
---	--

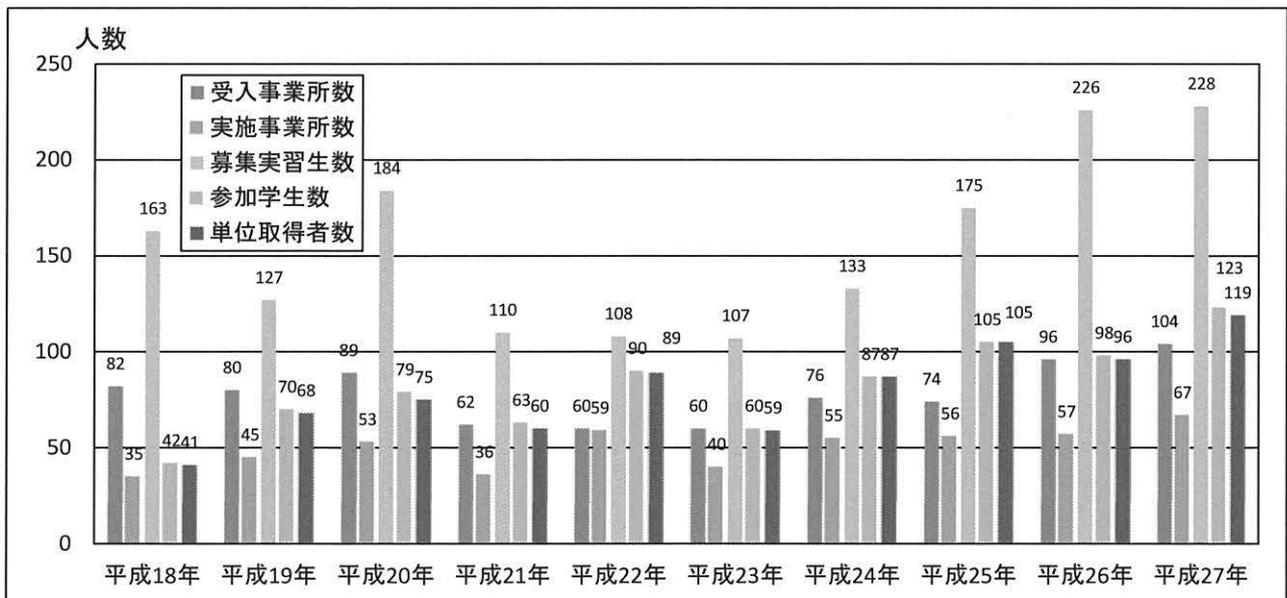


図 1 受入企業等の数および参加学生数(10年間の変化)

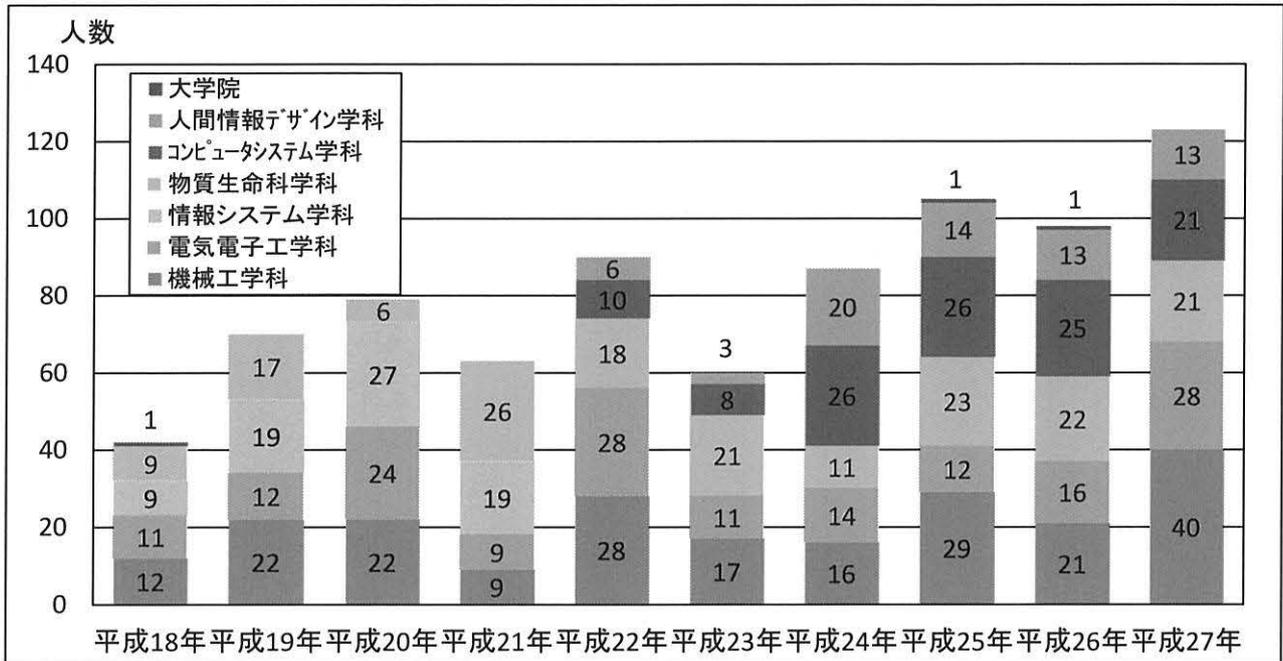


図2 参加学生数の内訳(10年間の変化)

また学生は実習に先立って、参加申込書の提出時に助言教員の承認をうけることになっている。これは本学教員への連絡だけでなく、学生が自から参加の意思を示すことで、キャリア教育への参加の機会を増やすためでもある。

インターンシップ実習は、8月5日から9月24日までの本学の夏期休業期間中に各企業において行われ、滞り無く終了することができた。各事業所における実習期間中は、インターンシップに対する協力の御礼と学生の実習状況の視察を目的として、受入れ企業に担当教員が出向き、実習受入担当者と面談を行った。

本年度に各受入企業等において実施されたインターンシップの実習テーマについて分野別に分類したものを表5に示した。また、本学でインターンシップを実施した10年間の受入企業数、実際に実習を実施した企業の数、募集学生数、参加学生数、単位取得学生数の変化を図1に示した。今年度は受入れ企業・実施事業所数・募集実習生数は昨年とほぼ同等だったが、参加学生数が、キャリア形成教育の成果が現れ、昨年よりも大幅に増加した。10年間の参加学生の累計は817名となった。参加学生の学科別内訳を図2に示した。本年の特徴は、機械工学科・電気電子工学科の学生の参加人数が増加したことである。

7. インターンシップで学生は何を得たか？

以下では、学生の実習報告に基づいて、実習によって得られた成果、実習を行った感想、実習に関する反省などについてまとめた結果を報告する。

7.1 実習内容

学生が実際に行った業務内容の詳細を事項別にまとめ、よく行われていた主要な業務内容を図3に示す。「製作、組立、加工」が36.6%、「営業、接客、販売」は18.7%であった。昨年度とほぼ同様の値であった。「実験、測定、試験、分析」は5.7%で昨年の1/2であった。実験、測定をもう少し多く実習してほしいが、景気がよく、企業の持つ機械の稼働率が高くなり、結果的に実験、測定作業の余裕がなくなった可能性もある。

7.2 実習によって得られた成果

「実習の成果」についてまとめたものが図4である。1位の「企業や職場の雰囲気がわかった」は28.2%、2位の「人との付き合い方、会話の重要性」は18.7%で、その他の項目も昨年度とほぼ同率であった。どのような職場へ行っても、学生の感じる所は等しいと思われる。

アンケートの自由記入欄に“実際に企業に行って職場の雰囲気、仕事への責任の重さなどを体感できて貴重な体験が出来たと思います”など、インターンシップでの実習が自分のためになった旨の記述が多くみられた。さらに、“5日間は短く感じてしまった10日間ぐらいが適切”など実習期間延長の要望も数件あった

7.3 実習に関する感想

「実習に関する感想」についてまとめたものが図5である。1位の「貴重な体験ができた」は26.3%、2位の「経験を生かして自分の進路をきめたい」は17.0%で昨年度4位であった。今回も経験を生かし今後につなげる目的は達成されたと考えられる。3位の「実習担当者の助言がためになった」は、昨年度6位であった。インターンシップ先の配慮が垣間見える。さまざまな仕事から充実感を味わえたものと思われる。「問題点の解決が面白かった」は3.8%であり、昨年度の3.5%と比べほぼ同率である。

インターンシップは、現実の厳しさを知り、自分の進路を決めるためのトリガを与える貴重な機会を提供しており、重要な実習の一つであると思われる。今後も、多くの学生をインターンシップに参加させる方策を検討していく必要がある。

7.4 実習に関する反省

実習に関する反省として記載された事項を整理したものを図6に示す。昨年度4位の「うまく話や説明ができなかった」ことが20%で1位に、「もっと質問すべきだった」が18%で2位になった。昨年度3位であった「基礎的、応用的な知識が足りなかった」は、今年度4位になったが、昨年度とほぼ同率で17.7%から16%になった。本学学生の実力不足が感じられる。第3位の「集中力が途切れてしまった」は、昨年度の4位13.4%から17%になってしまった。1位から4位まではほぼ同じような率で、

順位については昨年度に比べて変化しているが、本質的には昨年同様であると言える。

アンケートの自由記入欄に“富士宮の市役所もインターンシップに加えることは出来ないか”，“菊川市役所でもう1週間増やしてほしい。”との意見があった。受入れ先企業の開拓に対する要望が多いように思われる。また，“日程や服装、実習に必要なもの等に関する情報をもう少し早く知りたかった。（今回は実習が始まる直前に資料が郵送されてきた）”，「求人ナビの募集の時点では組み込みシス

テムについて書いておらず、インターンシップマッチング会で実習内容に組み込みシステムがあることを知ったので、募集の方にも記載してほしいです」など事前準備に関わる情報提供を求める意見があった。情報提供は早期に確実にやる必要があると考える。また，“準備期間を増やしてほしい。”などの意見もあった。これらの要望について、すぐに対応することは難しいかもしれないが、徐々に改善していく必要はあると感じた。

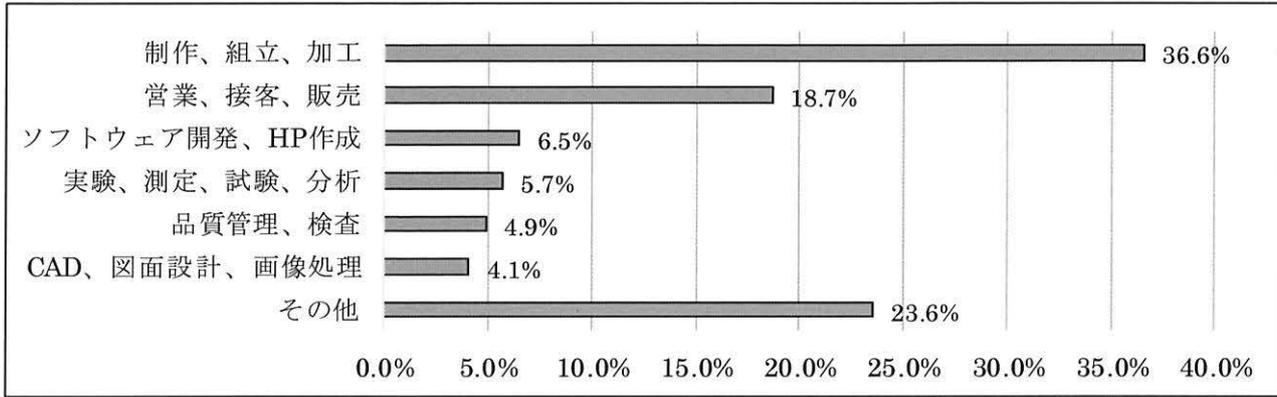


図3 実習内容の詳細

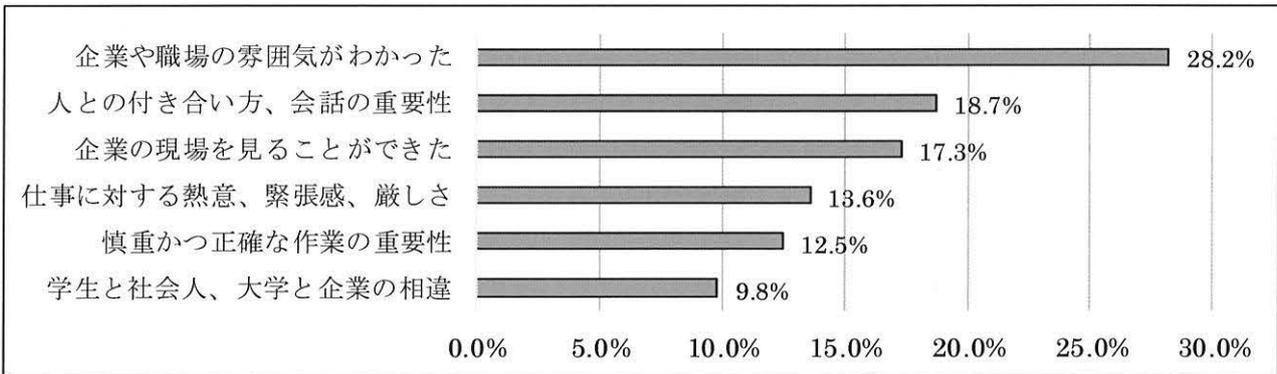


図4 実習によって得られた成果

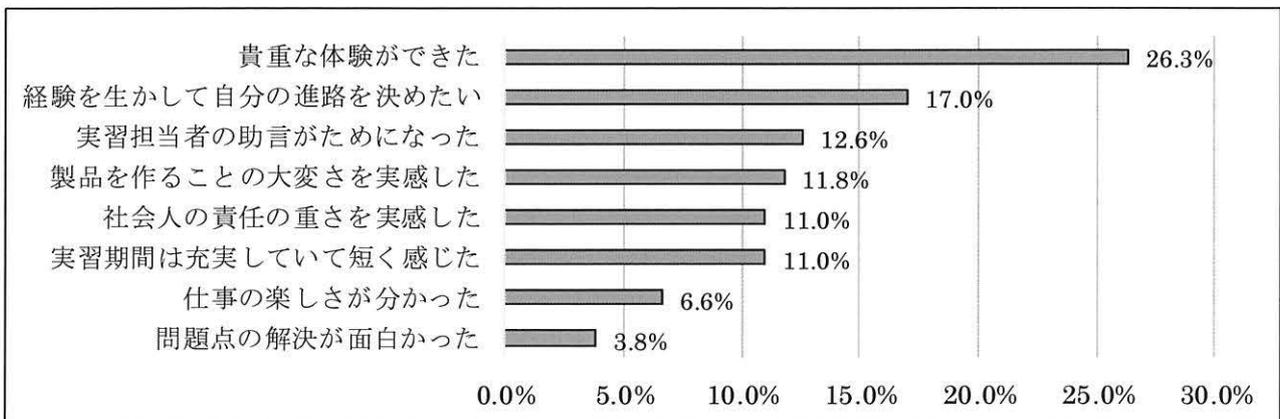


図5 実習に関する感想

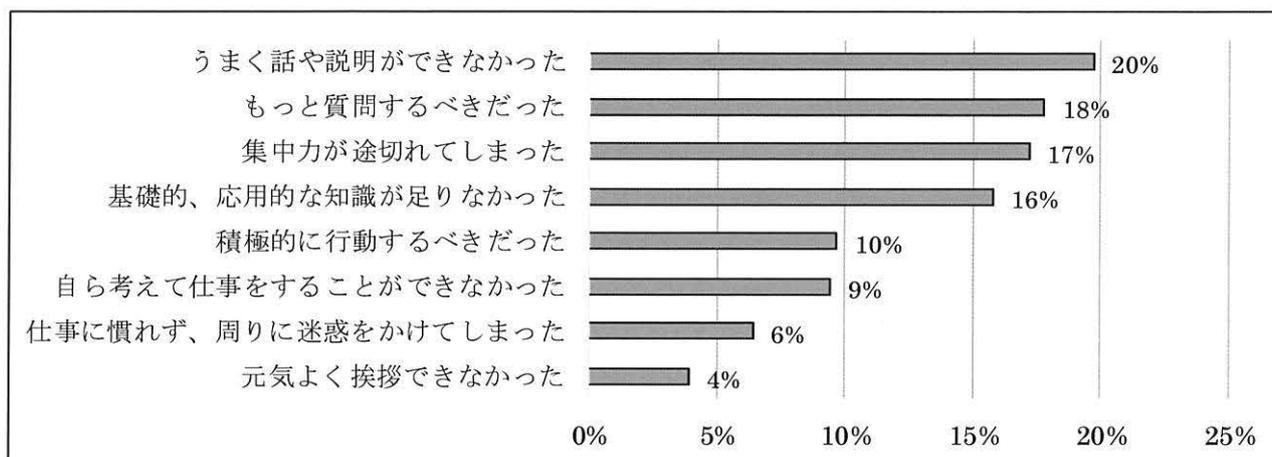


図6 実習に関する反省

表6 インターンシップ実習生に対する個人別評価 (5段階評価, 回答数 123)

評価項目	評点					平均点
	大変良い	やや良い	普通	やや劣る	劣る	
	5	4	3	2	1	
勤務状況(欠勤, 遅刻, 相対などの状況)はいかがでしたか?	90 73.2%	23 18.7%	7 5.7%	2 1.6%	1 0.8%	4.6
勤務態度(言葉遣い, 挨拶, 返事などは)はいかがでしたか?	59 48.0%	34 27.6%	22 17.9%	6 4.9%	2 1.6%	4.2
実習内容はよく理解できていましたか?	40 32.5%	48 39.0%	32 26.0%	3 2.4%	0 0.0%	4.0
仕事に対し, よく実行・行動・努力していましたか?	42 34.1%	48 39.0%	29 23.6%	3 2.4%	1 0.8%	4.0
仕事は正確で良い結果を出していましたか?	31 25.2%	53 43.1%	35 28.5%	3 2.4%	1 0.8%	3.9
創意工夫の姿勢は見られましたか?	23 18.7%	45 36.6%	44 35.8%	10 8.1%	1 0.8%	3.6
仕事に対する積極性はいかがでしたか?	34 27.6%	42 34.1%	34 27.6%	12 9.8%	1 0.8%	3.8
責任感を持てていましたか?	39 31.7%	44 35.8%	37 30.1%	3 2.4%	0 0.0%	4.0
協調性はいかがでしたか?	34 27.6%	54 43.9%	29 23.6%	4 3.3%	2 1.6%	3.9
全体評価	44 35.8%	52 42.3%	23 18.7%	4 3.3%	0 0.0%	4.1

8. インターンシップ実習の評価（受入企業、訪問教員）

インターンシップ終了後、実施状況をできるだけ詳しく調査して問題点を把握するために、昨年と同様に受入企業、参加学生および訪問教員に対してアンケート調査を実施した。それらの結果について以下に述べる。

8.1 受入企業による実習生の評価

単位認定のため、学生の実習状況の評価を行う必要がある。そのため企業の実習担当者に依頼して、個々の実習生の実習状況に関する評価を求めた。評価は10の評価項目について5段階で評価するものとした。その結果(回答数123)を表6に示した。全体評価の平均点は、昨年よりも0.1下がり4.1であった。個々の評価項目の平均点を比較すると、「勤務状況」と「勤務態度」は昨年と同じ値であったが、「創意工夫」と「積極性」は-0.1、「内容理解」、「実行・行動・努力」および「責任感」は-0.2、「正確さ」と「協調性」は-0.3となり、全体的に昨を下回る評価であった。さらに、各評価項目においては、「やや劣る」の評価を受けた学生の比率が、「勤務態度」および「協調性」を除いた全ての項目で増加していた(昨年度:「勤務状況」:1.0%、「勤務態度」:5.1%、「実習理解」:1.0%、「実行・行動・努力」:1.0%、「正確さ」:0%、「創意工夫」:2.1%、「積極性」:3.0%、「責任感」:2.0%、「協調性」:4.1%、「全体評価」:2.1%)。特に、「積極性」と「創意工夫」においては昨年よりも6%程度上昇しており、受身の姿勢で実習に参加し、積極性に欠ける学生の割合が増加したものと思われる。一方、「大変良い」の評価を受けた学生の割合は、「勤務態度」は昨年と同様であったものの、他の全ての項目が昨を下回っていた(昨年度:「勤務状況」:78.6%、「実習態度」:48.0%、「実習理解」:41.8%、「実行・行動・努力」:48.0%、「正確さ」:39.8%、「創意工夫」:19.4%、「積極性」:35.7%、「責任感」:43.9%、「協調性」:49.0%、「全体評価」:44.9%)。特に顕著な低下が認められたのは、「協調性」に対する評価であり、コミュニケーション力に問題が見られた学生の割合が昨年よりも増加している傾向が認められた。

表7にはインターンシップ実習生に対する個人別評価の所見として述べられた主要なものを示した。多くの学生については積極的な行動が評価されていたが、「挨拶ができない」、「積極性に欠ける」、「コミュニケーションをとってほしい」等の問題点を指摘する意見も多く、「仕事内容を理解せずに参加したのではないか」、「同じことを何度も聞いてくる。メモをとらない」、「年配者や初対面者に対する言葉遣いに注意すべき」、「他人への配慮・気遣いが足りない」といった指摘も見受けられた。表6の結果を改善するためにも、今後、実習前の事前教育で、社会人としてのマナーを徹底させる指導が必要であると考えられた。

8.2 受入企業によるインターンシップの評価

受入企業担当者によるインターンシップに関する評価結果を図7に示した。昨年同様、いずれの項目も、90%以上の回答が「適切」あるいは「ほぼ適切」という結果となった。今年度は、3つの項目で「不適切」が0.0%となりこの点については昨年度と比べると改善されたが、昨年度と今年度の結果と比較すると「実習内容」については「不適切」の割合が3.9%から7.7%に増加しているため、実施内容について見直しが必要である。また、「実習態度」については「不適切」の割合が昨年度8.0%から今年度4.5%と減少したものの、この点については、事前研修の強化や、インターンシップを受けるのに相応しくない学生の受け入れ見合わせなどの措置も引き続き必要と考えられる。しかし、「実習内容」について「不適切」と回答した一部の企業からは、「怪我をさせられない」、「学生のやりたい仕事とマ

ッチングしない」、「仕事内容を理解せずに参加しているのでは」などの意見が出ており、これらの点は来年以降の実施にあたっての検討課題といえる。

8.3 学生によるインターンシップの評価

参加学生達自身によるインターンシップに対する評価結果を図8に示した。「実習内容」、「実習環境」、「指導内容」の満足度は昨年と同様高くなっており、また「適切」、「ほぼ適切」、「やや不適切」、「不適切」の回答数の比率も、昨年度とほぼ同じであったが、「実習内容」について「不適切」という割合が0.8%あったため、「実習内容」に関わる事項については検討が必要である。例年11月に学内で開催される、参加学生によるインターンシップ報告会では、短い期間のインターンシップの中でもさまざまな体験を得たことが報告され、また、そのことにより学生が一步成長した様子が見られたのは喜ばしいことであった。この体験が学生の就職活動をはじめとした今後の人生に役に立つことを願ってやまない。

8.4 実習先訪問担当教員の報告

平成27年8月7日～9月24日の期間、本学教員47名が61社の実習先企業を訪問し、インターンシップ先への御礼のご挨拶と本学学生の実習状況を確認した。具体的には、各企業のインターンシップ学生の受け入れ担当者および実習学生本人と面談し、仕事の内容、状況、学生の対応などの観察・聞き取りを行った。その後、教員にはアンケート調査が実施され、インターンシップ先での学生の実習への取り組み、意欲、そして、インターンシップ先企業の実習内容、それぞれに対して回答することが求められた。アンケート結果を、図9から図11にまとめる。

図9は、学生の実習への取り組みに対する教員の評価結果を示す。教員は93.4%の学生の取り組み(非常に真面目である72.1%+真面目である21.3%)を真面目であると評価していた。この割合は、昨年度の割合(非常に真面目である74.0%+真面目である22.0%=96.0%)とほぼ同じであった。

図10は、実習生の意欲に対する教員の評価結果を示す。教員は93.4%の学生が意欲的に取り組んでいる(非常に意欲的67.2%+やや意欲的26.2%)と評価していた。この割合も、昨年度の割合(非常に意欲的82.0%+やや意欲的14.0%=96.0%)とほぼ同じである。

図9と図10の結果を総合すると、インターンシップに参加した今年度の学生の実習態度は、昨年度の学生と同程度に、真面目、かつ、意欲的であると教員は評価したといえる。

図11は、インターンシップ先企業の実習内容に関して、訪問教員が4つの間に対して回答した結果を示す。その4つの問とは、(a)教育的であったか、(b)実習プログラムは充実していたか、(c)指導状況は良好か、(d)指導困難な様子はなかったか、である。図11に見られるように、全ての項目において、「そう思う」、「ややそう思う」の評価合計が概ね80%を超えていた。この結果から、実習内容や、企業の指導者と学生の関係は、第三者である教員から見ても、概ねポジティブなものだったといえる。なお、「(d)指導困難な様子はなかったか」という項目に対して、「そう思わない」という回答が10%程度あったが、この結果に対する解釈は慎重にならなければならない。このことは、「そう思わない」と回答した教員の個別の所見では、(d)への回答と矛盾して、「非常に丁寧に指導してもらっている」という回答が見られたことによる。さらに、別の教員から「質問事項の(d)は答え方が分からない」という指摘もあった。これらの点を考慮すると、(d)に関する結果は、「指導困難な様子はなかったか」という否定表現に対して、一部の教員による混乱を反映していた可能性がある。(d)の質問項

目の表現については次年度、修正しなければならない点といえよう。

最後に、訪問教員による訪問所見をまとめる。昨年度と同様、多くの教員はインターンシップの効果に関して肯定的な意見を提出していたが、以下のような今後解決すべき意見も散見された。

- ・学生側と受け入れ側との想いの間に、多少のミスマッチがあったかもしれない。
- ・受け入れ部署が2箇所しかなく一度に複数の学生を受け入れることは難しく期間をずらしての対応にならざるを得ないということであった。

- ・今のところ本学の学生は特に問題はないが挨拶・服装に難のある実習生もいるとのことでマナーについての事前学習はきちんとやってほしいということであった。
- ・コミュニケーション能力が必要とされている現場で、学生も実感できている様であった。
- ・現在参加している学生に関してはコミュニケーション能力の欠如を指摘された。

これらの意見から、学生個人と企業とのマッチング、学生の礼儀やコミュニケーション能力などが重要な課題であることがわかる。このような貴重な意見を基に、来年度以降のインターンシップを、就職活動の支援、就職への意欲向上、そして学生の今後の社会人としての活動の糧となるように、種々の改善を行っていききたい。

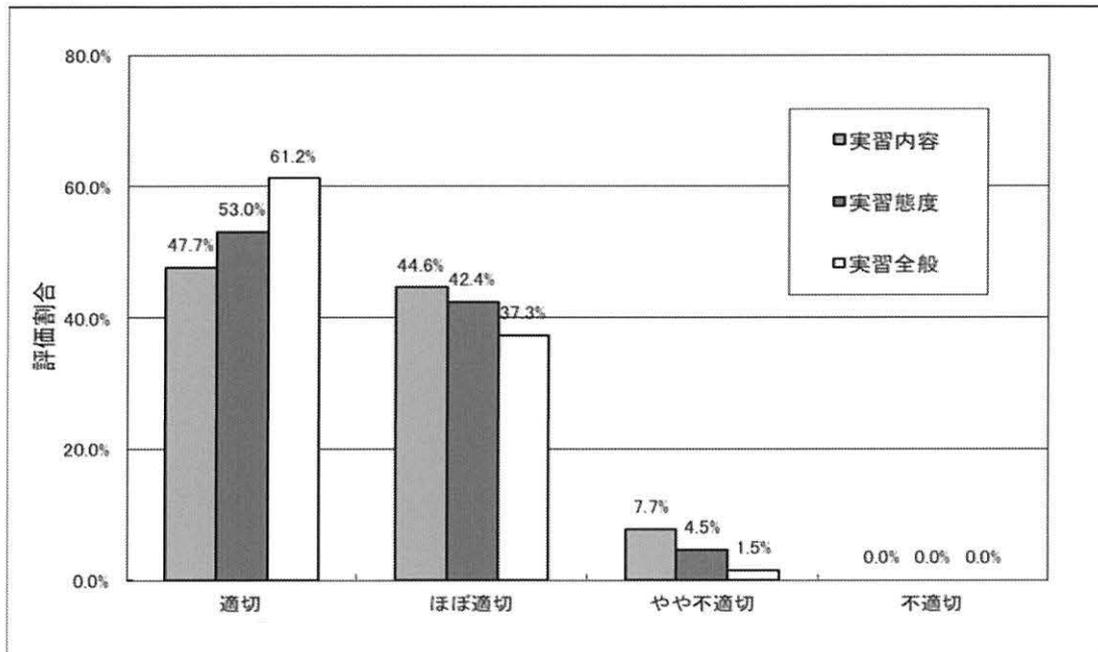


図7 受入企業担当者によるインターンシップへの評価

表7 インターンシップ実習生に対する個人別評価の所見

<積極的な行動が評価された>
<ul style="list-style-type: none"> ・真面目に取り組んでいて大変良かったと思います。 ・予定しておりました期間内で、台風の影響で困惑させましたが、一生懸命取り組んでいただきました。 ・積極的に仕事を理解しようとする姿勢が見られました。作業を改善してくれるなど大変貢献してくれました。 ・最初は緊張のせいもあり遠慮がちでしたが、徐々に主体性を発揮し卒なく取り組むことができました。ただ、本来能力があると思いますので、目標を持って取組み成長に繋げていただきたいと思います。よい習慣化を期待しております。 ・積極的に質問やコミュニケーションを図ることで、一層様々な事を学び感じる事ができていたと感じました。 ・協調性を持って作業に当たっていました。農業に対する質問もあり社員が具体的な説明を致しました。将来の職業選択に役立ったことかと思えます。 ・どんな作業も真面目に行い、一つ一つの業務をやり遂げる達成感を実感してもらえました。 ・期間が短かったため、慣れてきた頃に終了という感がありました。はじめは少し大人しい印象を受けましたが、笑顔での接客ができていました。子供の接客という特殊な業種の中で、慣れようとする努力が見られました。色々な業種の仕事があること、それぞれのやりがいや楽しさ、厳しさがほんの少しではありますがありますが、体験できたのではと思います。夏休みの忙しい時期に積極的にお手伝い頂き、当方も本当に助かりました。ありがとうございました。 ・3DCADの操作概念をよく理解でき、課題を要領よくこなせていました。途中からは他者の応援に回るなど、協調性も概ね良好だったと思います。挨拶と返事がしっかりと出来ていて、とても印象が良かったです。 ・積極的に学ぶ姿勢が見られました。大変良くやってくれました。 ・疑問に思ったことは積極的に質問していました。声が大きく、常に笑顔であったため、好感の持てる学生でした。 ・全般的に高いレベルで実習をすることができております。楽しんで取り組むことができている為、成長も実感され

たのではないのでしょうか？また気づきが多く、自己観照もできる学生だと思います。是非、大局観、多面的に事象を捉えるよう努力してみてください。更なる成長を大いに期待しております。

- 挨拶と返事がしっかり出来ていてとても印象が良かったです。
- 大変期間が短い中での実習でしたが、その限られた時間の中で実際に「大雨警報」による災害対応に当たるという貴重な体験ができたと思います。この災害対応の時に感じたかもしれませんが、どんな職種の仕事でも、「顧客」、私達で言うと「市民」からの様々な要望を的確に把握するとともに優先順位を判断し、迅速な対応が求められます。便利な世の中になればなるほど、これからますます住民ニーズは高まりを見せることは間違いありません。これから本格的に就職活動が始まると思いますが、信念を持ってやり遂げられる仕事を見付けられるようこれから頑張ってください。
- 加工、機械操作、段取りなどを素早く理解できており、順調に仕事していました。自ら機械や工具に興味を持ち、質問に対してもすぐに返答できていて、やる気を感じました。前向きで作業態度も良かったです。
- 個別で話をすると、声が小さく心配していました。しかし、従業員全員の前で自己紹介をした際、大きな声ではっきりと自分の意志を伝えることができていました。実習中、積極的な行動が目立ちました。
- 言われなくても始業就業時の挨拶が出来ていました。
- 一層物事を明確に伝えることができれば、更に色々な考え方や知識等を聞くことができたように思います。
- 初日から挨拶が良く、印象に残りました。担当者が説明をしていると、細かいところや疑問点などを積極的に質問していて、仕事に対するこだわりや前向きさが感じられました。将来の夢ややりたい仕事のことも話していただき、積極的で良かったです。
- 言われなくても始業就業時の挨拶を実行できました。
- 今回の実習で、機械加工でのライン作業を問題なく実施することが出来ました。また、作業をしながら製品を加工している様子の観察や機械名、ツール名、測定具の使い方など、様々な知識を前向きに覚えようという姿勢に好感が持てました。日や週のレポートで覚えた知識のまとめ方も社会人としての仕事の一環として指導させて頂きました。短期間でしたが、今回の実習で感じ得たことを今後活かしていきたいです。
- 実直に向上心を持って作業に当たっていました。インターンシップ終了後も8月末までアルバイト生として留まり種々の体験をされたと思います。
- 与えた課題の意図を正確に捉えられず苦戦していました。責任感が人一倍強いせいか、何とか一人で解決したいという傾向が強くみられましたが、指導により仕事での協調性の大切さについて理解していただけたと思います。
- 受け答えに対してははっきりと大きな声で答えられ与えられた仕事に対し責任感を持ち楽しみながら取組めた。
- 今回の実習では、スターター部品の製造ラインで自動車部品完成品箱詰め作業及びラインオペレーター補助作業を行って頂きました。品質教育や実際の現場作業で、安全作業、正確な作業の大切さを理解して頂けたと思います。また、ロボットシステムに大変関心があり、多くの質問をするなど熱心な姿にとっても感心しました。今後、専攻されている勉学に活かして頂きたいと思います。
- 電子部品の調査選定に興味を持って熱心に取り組んでおられました。言葉遣い、返事もはっきりされており、大変好印象を持ちました。今後のご活躍を期待しております。
- 実習については説明した内容を理解して正確に作業出来たと思います。実習以外の面でももう少し積極性があると良いと思います。
- 周りを見ながら気づき、先回りして取り組んでいたと思います。声が小さい点は必ず直した方が良いと思います。
- 業務を通して、正確にかつ真面目に取り組んでいた。
- 課題や実習に取り組む姿勢、自発的に質問する積極性は評価出来ます。プレゼン資料製作においては、Overtimeの作業も苦とせず、アニメーション等を駆使して完成度を上げようとしている姿も好感が持てます、フォームメールが届きました。
- アジサイの手入れにすごく達成感を感じてもらえたようでした。普段しない作業に興味を持ってもらえました。
- やる気、意欲が感じられとても良かったです。
- 興味を持って作業を行っており、休みの日にはお寺や神社巡りも行くみたいで、最終日にはご朱印も書いてもらいました。
- 電気電子工学科ということで、当社の機械系のお仕事に対応できるか心配していましたが、概ね問題なくこなせていたと思います。
- どの業務においても真面目に取り組んでおり、チームのメンバーとも進んでコミュニケーションを取ってありました。
- 特に電子回路の分野では、持っている知識を十分に活かし、難しい課題にも積極的に挑戦していました。理解力にも優れており、基本をすぐに習得して応用編に活かすことができている姿も、全ての分野の課題をクリアすることが出来ていました。どんなことに対しても『素直に学ぶ姿勢』がとても素晴らしいと感じました。
- 電気工事に対し興味を持っており、前向きな姿勢に見えた。態度もいつも笑顔で、事あるごとに『ありがとうございます』と発言し印象がとても良かった。実習態度も大変真面目で、とても好感が持てました。
- とても礼儀正しく真摯に仕事をさせていただき、環境政策課としても非常に助かりました。もう少し居て欲しいぐらいでした。ありがとうございます。
- 協調性を持って仲間とも溶け込み、積極的に仕事を習得する姿勢が感じられました。

- 実験から結果のまとめ、プレゼンまで、積極的にインターンシップに参加してもらい、インターンシップに参加した目的を達成できた様で、良かったと思います。
- 慣れるまで少し時間がかかりましたが、真剣に取り組んでいました。
- 任された業務については、責任を持って取り組みました。子育てを取り巻く現状の一部ですが、この経験が今後の進路に少しでも役立てればと期待しております。
- 事前課題に対する取り組みが、過去で最も良かったと思います。インターンシップ中も積極的に取り組んでいただき、インターンシップに参加した目的を達成できたとプレゼンで発表していましたので、良かったと思います。
- 従業員とも積極的にコミュニケーションをとるなど、前向きな姿勢が感じられました。
- 明るく感じの良い人柄でした。次に何をやればいいのかを聞き、メモを取り積極的に動いてくれました。
- 夜間のスポーツ教室にも積極的に参加してもらいました。
- 勉強されていることと、少し当社でのインターンシップ実習内容が異なっており、苦勞されたと思いますが、積極的に取り組んでくれていたように感じました。少しでもこうした業界のことに興味を持っていただけたとしたら嬉しく思います。短期間、広く浅くの実習で大変だったと思いますが真面目に取り組んでいただけました。挨拶もしっかりでき、IT分野の知識も豊富で優秀だと思います。コミュニケーション能力をさらに高めることにより、より立派になると思います。
- ソフトウェア開発が主な研修内容でしたが、要求仕様に対して独自の視点での工夫が見られ、創意工夫の前向きな姿勢が感じられました。
- 施設実習では、患者さんの視線の高さに合わせた声かけ、身体にやさしく触れながらの傾聴など、初めて介護という仕事に携わったのが不思議なほどの積極性があった。業務内容も覚えが早く、2日目からは、2手、3手先を考えて補助に入っており、自分自身が行うべきことを考えて率先して行ってくれていた。「人と接する仕事がしたい」という気持ちを大切に、これから自分がどうありたいかをゆっくり考えて欲しいと思う。得意、不得意を自分なりに理解している様子なので、不得意な部分は今より意図的に取り組むようにすれば、今よりもっと思考の幅が広がり、様々なことに取り組めるようになると思う。
- どの実習内容についても、まじめに取り組んでおり、やる気のある学生さんでした。ありがとうございました。
- 細々した雑用から子供達が制作した映画に出演したりと大活躍でした。真面目に取り組んでいただきありがとうございました。仕事を行っていく上での心構え等をしっかり持ち、今後の活動に生かして行ってください。
- 素直な姿勢で責任感、積極性をもって業務に取り組んで下さいました。グラフィックデザインでの就職は専門的に学んだ美大生や専門学生が中心の採用となりますので、就職活動が始まるまでにデザインとアプリケーションの勉強をして作品集を制作される事をお勧めします。
- ワークショップの企画運営という難しい仕事を率先してやっていただきました。ありがとうございました。短期間でしたので上記項目中、(5)の結果や(6)の創意工夫といった面で良い評価結果とすることはできませんが、勤務態度やこちらからの指示に対して、メモを取る姿や真摯に業務をこなす姿から非常に好感が持てました。今後とも是非頑張ってください。
- 第一印象から好感を持てました。挨拶は特に良いと思います。対応する人の目をしっかり見て丁寧に答えていました。わからないことは積極的に聞き真剣に取り組む姿を見せていただきました。インターンシップで何名かを担当させていただきましたが抜群の評価をしたいと思います。貴校のコミュニケーション教育の素晴らしさを感じさせられました。また、自分の子供にもインターンシップ実習生の話をしました。とても良い人に会えました。

<問題点の指摘があった>

- 会社組織や仕組みなどを知りたがっていたようですが、当初はその希望もわからず現場作業に従事しておりました。後半に時間をとって対応しましたが、本人もどうして良いのかわからずに困惑していたと思います。事前に本人とのすり合わせが必要だと感じました。
- もう少し積極的に行動と社員とのコミュニケーションをしていただけたら良かったと思います。
- 大学で学んでいる事と今回の実習業務が全く違う為、興味関心が薄い。指示された作業は確実に出来るが、それ以外の事は興味関心がない。これまでの人生でも、これからの人生でも経験することがない仕事かもしれないのだから、その期間だけでも積極的に興味関心を持って体験して欲しかった。
- 最初は暗くて大人しい印象を受けましたが、理解が早く、一人でできていました。旋盤工に向いていると思います。真面目にこつこつと作業をしており、皆より多少時間はかかりましたが、最後までしっかりとやりきってくれました。もう少し相手を見て話すことが出来れば、さらに良かったです。
- 骨折の影響があったのかもしれませんが、率先して行動を起こすことがありませんでした。また、社内での挨拶が出来ないことも残念でした。
- 控えめな印象を持ちましたが、積極性や、自発性が更に出せると良かったように思います。
- 安全面に配慮した仕事ができている、同じ工程を繰り返す作業も忍耐強くやっていました。たまに落ち着きがなく、担当者が話している際によそ見をしていることもありましたが、丁寧に飲み込みも早いですが、もう少し積極的だと良かったです。
- インターンシップを受けるのが初めての職場もあり、教え方が下手なところもあったようで、申し訳なかったと思います。そのような時にこそ、質問や突っ込みが欲しいですね。大人しいところがありますね。

- ・与えられた取り組みは真面目にこなしてくれました。積極性に欠けていると感じました。また挨拶(社内)がなかったことが残念でした。
- ・コミュニケーション(挨拶・報連相など)が率先してできない部分があった。慣れない環境であるため仕方がないが、挨拶はしっかりして欲しい。
- ・解らない所の質問等が少ないように感じました。
- ・緊張しているせいか声が小さい。こちらからの問いかけにも反応が鈍い。多分,当社の仕事内容を理解せずに参加したのではないと思う。それでは,何も得られないのでは？
- ・年配者や初対面者と接する際の言葉使いに注意したほうが良いと思います。良く取れば,何でもフランクに発言する積極的な若者となりますが,悪く取ると,思慮の浅い無礼者と受け取られます。
- ・指導している中で,早とちりする処が有りました。
- ・全体的に真面目に取り組むことができしております。ただ控えめな性格,自信がない為か前に出てくる場面が少ないよう感じました。ただ思慮深さはあり,発言にも周囲が驚かされる部分もありました。弱みを克服しようとする姿勢もすばらしいと思います。これから多くのものを主体的に経験し自信と達成感を味わってください。期待しております。
- ・もう少し積極的に行動と社員とのコミュニケーションをしていただけたら良かったと思います。
- ・接客はよく,ハキハキ大きな声を出している。同じことを何度も聞いてくる。メモをとらない。
- ・言葉遣い&勤務姿勢は良かったが,挨拶,他人(お客様など)への配慮・気遣いが足りない点があった。
- ・指導担当者が離席することが多い中,他の社員に相談するなどして,期間内に問題解決することができていました。少ない時間の中で指導担当者への相談・報告も漏れの無いよう工夫して頂ければより良かったかと思えます。
- ・実習内容(wordpress インストールからお知らせ表示プログラム,お問い合わせフォーム制作)まで一通り期間内で制作が行えました。さらに使いやすくするにはどうしたら良いかなど使う人目線で考えられ工夫できればもっと良いかと思えます。
- ・コミュニケーションをしっかり取り,相手が何を求めているのかを把握することを今後も心掛けて行って下さい。
- ・事前予習の実施や不明点に関して自ら調査を行う点など,積極的な行動が見受けられ,大変良かったと思います。1点,実習結果に対して,自信が持てない面があり説明を求めた際の声が小さくなってしまいう傾向がありました。
- ・一生懸命,積極的に動いてくれました。次に何をやるかを聞き前向きに取り組んでくれました。頭髪,ネクタイの締め方等,見た目の意識がもう少し必要です。
- ・もう少し元気があると良いです。仕事ぶりについては,正確で丁寧な印象です。

9. 平成 27 年度インターンシップのまとめ

本年度のインターンシップの取り組みを振り返り,以下のようにまとめる。

9.1 事前研修について

今年度の事前研修は,一昨年度,昨年度と同様に3回とした。全学的にもキャリア形成教育も進んでいることから,回数については3回の事前研修で必要十分であると考えられた。参加者数については,昨年度から特に第1回事前研修への参加者が200名を超えるようになり,本年度は245名の参加となった。特に第1回事前研修については,今後とも本年度と同様に300講義室以上に大きなキャパシティのある講義室の確保が必要である。なお各学科,学部別の学生の参加率についてみると,総合情報学部の2学科については,いずれも昨年度の参加者数を若干上回ったが,理工学部の3学科(機械,電気電子,物質生命)については昨年度の参加者数より上回っている。インターンシップ参加が就職活動のマストになりつつある昨今の状況を学生自身は理解していると思われる。このような好状況を生かすべく,とにかく第1回事前研修には参加してもらるように,ガイダンスの機会なども活用して様々な方法で学生へのアピールを今後も強化すると共に,社会人としての自覚を促す必要がある。

9.2 実習受入れ企業数について

今年度は依頼企業の状況を分析し,受入れの可能性のある企業に絞って依頼を行った。また,卒業生の就職先の中からもインターンシップ受入れの可能性のある企業を選別し,昨年度と同じ計550社に依頼を行った。この結果,104(昨年度は96)事業所,228(同226)名分の実習テーマ受入申し込みがあった。このように,受入企業社数,人

数については,昨年度を上回る数の実数を用意し,本年度のインターンシップ参加者数は過去最高を記録するに至ったものの,大学の講義のノリで出席すればよいという感覚で参加する学生が増えたことは残念である。インターンシップ参加が就職活動のマストになった昨今の状況を本学の学生にも広く自覚させ,質の高いインターンシップ体験にしていくためには,事前のマッチング会や助言教員の企業訪問を通じて,より厳しい,ためになる実習を企業サイドにもお願いしていく必要がある。

9.3 インターンシップ実習の評価

受入れ企業および学生自身の評価においては,例年「積極性」,「コミュニケーション能力」などの不足が指摘されているが,2015年度はこれに加えて「創意工夫」と「積極性」の不足についての指摘が大幅に増加した。もちろん学生個人による差が大きく,学生の大半は真面目に参加しているのだが,今回初めて5名の無断欠席・遅刻による不合格者が出たことを考えると,インターンシップの事前研修ではハッキリと「大学の講義とは異なる社会人体験」であることを訴える必要がある。入学時からのキャリア教育全般や,PBL,アクティブラーニングの手法などを取り入れた初年度からの地道で継続的な指導がますます重要であると考えられる。大学全体として,さらなる改善に取り組む事が必要である。

9.4 春期インターンシップについて

過去3年間に引き続き,2016年春も春期インターンシップを行った。春期インターンシップについては事前のアンケートで受入れ可能と回答のあった企業に加えて,夏季インターンシップ実施時に春季も受入れを検討下さる意向を表明されていた企業57社(2015年は51社)に受入

れ依頼状を送付し、そのうち 28 社 (同 27 社) からの受入れ申し込みがあった。学生募集については 2 年生, 3 年生を中心に募集を行い、第 1 回事前説明会には 35 名 (昨年は 12 名) の参加があったものの、最終的に実習を行った学生は 5 名 (昨年度は 6 名) であった。

事前説明会の参加者数多かったにもかかわらず、最終的には参加者が昨年並みに留まった理由としては次のものが考えられる。

- ・ 3 年生についてはすでに夏季において参加した学生が多くなっている
 - ・ 2017 年春卒業学生の就活日程が 2016 年度より前倒しになっており、3 年生は 2 月以降は就職活動に入ってしまった
 - ・ 就職活動に積極的な学生は、企業が独自に行っている 1 day インターンシップ等の行事に自主的に参加するようになっていく
 - ・ 2 年生に関しては、単位修得が 1 回きりであること、夏のインターンシップに比べて企業数が少なく意中の企業が参加していない
- という理由が考えられる。

過去 4 年間、春季インターンシップを続けてきたが、夏季インターンシップの参加者数が過去最高となり、不真面目な学生も参加するようになっていくことを考えると、インターンシップ参加者を増やすという目的は既に達しており、春季に数名程度の参加者のために費やす事務手続きの手間を考えると引き合っており、廃止する時期に来ていると考える。次年度以降についてはまた別の形で自主的な学生の社会参加を即す施策を考えることとし、インターンシップ WG を通じて各学科の意見を聞き、反対がないことを確認した上で、本年度までのスタイルの春季インターンシップは廃止することとした。

9.5 その他

これまで、インターンシップ報告会については 10 月から 12 月まで、様々な時期に開催してきたが、12 月では実習終了からの期間が開きすぎているという意見が多く出されていた。他方、報告会にはできるだけ学生および企業担当者双方の印象に残っている間に開催することが望まれるので、その点では 10 月の開催には利点があった。しかし、10 月開催ではプレゼンテーションで報告を行う学生の指導を依頼した助言教員の一部からは、準備期間が少な

すぎるという意見もあった。このため、本年度の報告会については 11 月 16 日に行った。次年度以降の報告会についても、10 月末から 11 月上旬の間に開催することが望ましいと考えられる。

なお本年度のインターンシップ実施に際しては 5 名の無断欠席・遅刻による不合格者が初めて出た。また例年、以上に積極性や創意工夫の不足を指摘をする企業が増え、学生の資質や態度の問題等が指摘されている。さらに過去においては挨拶に訪問する教員の対応等の問題が指摘されたこともあった。今後も事前研修等で、学生にその点を徹底するとともに、教員各位に依頼する際にも、念のため丁寧な対応について、ご配慮いただくよう改めて依頼するとともに、しっかりした指導を企業にお願いしておく必要がある。今後も事前研修や日常の教育の機会を活用して、一人の学生の態度が、本学全体の評価を下げることも、また向上させることもあるという点について指導していくことが大切である。本年度は、実習中の事故や怪我の報告が 1 件あったものの、幸い軽微なもので済んだ。過去においても、深刻な事例ではないとはいえ、慣れない環境において、学生が事故を起した事例もあることから、来年度以降も、事前研修等を通じ、事故発生防止の指導を徹底していく必要がある。

最後に、様々な大学の先行的な事例によって、より長期のインターンシップや海外インターンシップなどが学生のキャリア教育に大きな効果をもたらすことが明らかになっている。また、就職活動の一環としての企業独自のインターンシップ活動も盛んになりつつある。インターンシップで企業とより深い関わりを学生に持たせることについては、正課の授業との両立や海外の安全面の確保、費用負担等の問題もあるが、コミュニケーション能力の高いグローバル人材への産業界の要望も年々強くなっていることから、本学に相応しい、質の高いキャリア教育のあり方について、今後のさらなる検討が必要であると考えられる。

10. 謝辞

本年度のインターンシップ・プログラムを実施するにあたり、ご協力をいただいた企業および事業所の担当者の皆さま、報告会で発表をご担当いただいた皆さんに心から感謝致します。

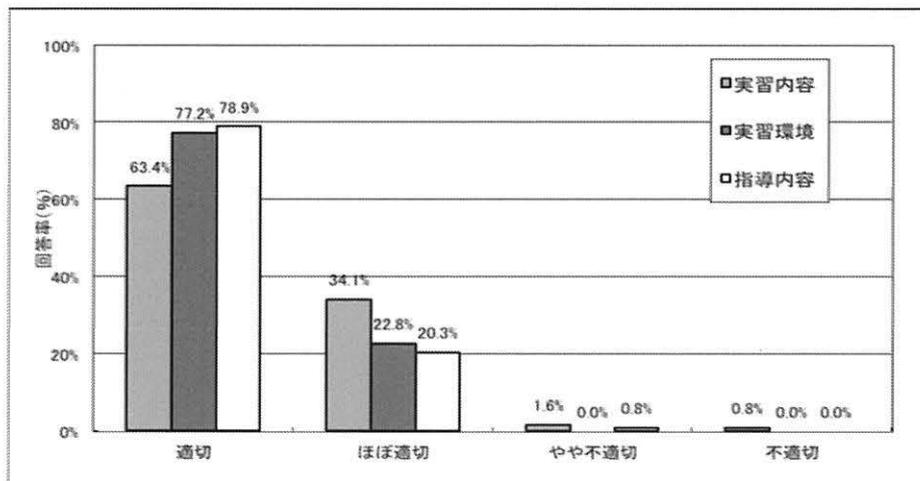


図 8 参加学生による実習内容, 環境, 指導内容への満足度

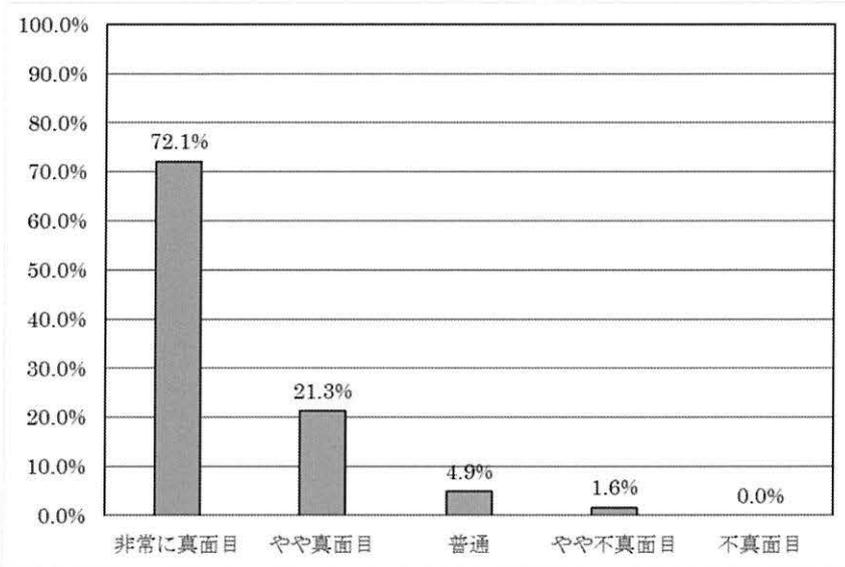


図9 実習学生の取り組みに対する訪問教員の評価

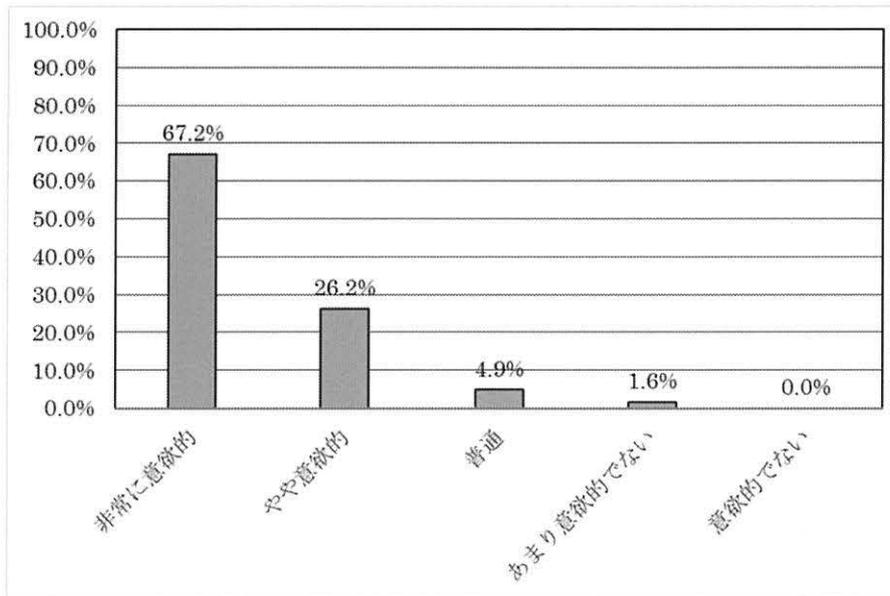


図10 実習生の意欲に対する訪問教員の評価

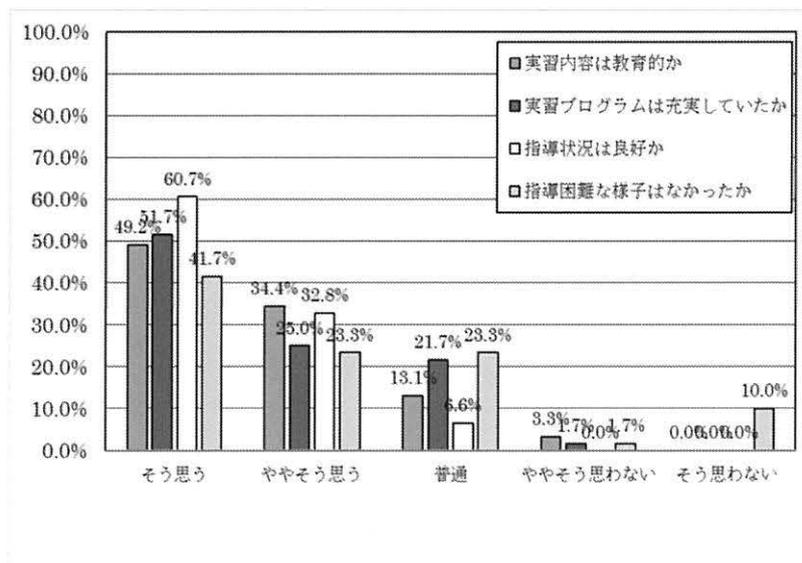


図11 訪問教員の受入事業所への評価と要望

参考文献

- 1) 文部省編, インターンシップ・ガイドブック, インターンシップの円滑な導入と運用のために, 1998.
- 2) 丹羽昌平 他, インターンシップで学生は何を得たか?—平成14年度インターンシップ実施報告—, 静岡理工科大学紀要, 第11巻, 2003, 281-303.
- 3) 丹羽昌平 他, インターンシップ実施5年間のまとめとこれからの展望—平成15年度インターンシップ実施報告—, 静岡理工科大学紀要, 第12巻, 2004, 299-320.
- 4) 丹羽昌平 他, 平成16年度インターンシップ実施報告—インターンシップの教育効果の向上のために—, 静岡理工科大学紀要, 第13巻, 2005, 95-104.
- 5) 丹羽昌平 他, 地域社会との連携による実習体験教育, 工学教育, 第53巻第4号, 2005, 23-29.
- 6) 惣田昱夫 他, 平成17年度インターンシップ実施報告—事前教育の充実による教育効果の向上—, 静岡理工科大学紀要, 第14巻, 2006, 163-174.
- 7) 富田寿人 他, 平成18年度インターンシップ実施報告—キャリア教育メイン・プログラムを目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第15巻, 2007, 127-139.
- 8) 富田寿人 他, 平成19年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第16巻, 2008, 117-129.
- 9) 富田寿人 他, 平成20年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第17巻, 2009, 163-174.
- 10) 山庄司志朗 他, 平成21年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第18巻, 2010, 145-155.
- 11) 山庄司志朗 他, 平成22年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第20巻, 2012, 119-131.
- 12) 石田隆弘 他, 平成23年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第20巻, 2012, 107-118.
- 13) 石田隆弘 他, 平成24年度インターンシップ実施報告—一貫したキャリア教育を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第21巻, 2013, 153-166.
- 14) 奥村哲 他, 平成25年度インターンシップ実施報告—より多くの学生のためのキャリア教育を目指して—静岡理工科大学紀要, 第22巻, 2014, 105-119.
- 15) 奥村哲 他, 平成26年度インターンシップ実施報告—より多くの学生のためのキャリア教育を目指して—静岡理工科大学紀要, 第23巻, 2015, 163-177.